

教育研究業績書

2024年10月22日

所属： 景観建築学科

資格： 教授

氏名： 上町 あずさ

研究分野	研究内容のキーワード
農学 園芸学	観賞・景観環境植物、遺伝子解析技術、資源植物開発利用、分類形質、系統、生理生態
学位	最終学歴
博士（学術）、農学修士、農学士	京都府立大学大学院 生命環境科学 研究科 環境科学専攻 博士後期課程修了

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 「2023ひょうごまちなみガーデンショー in 明石」への出展	2023年9月17日～2023年9月24日	県立明石公園で開催された「2023ひょうごまちなみガーデンショー in 明石」に景観建築設計総合演習Aの第1課題「原寸大の空間構築」の作品「輪廻 テンセグリティによる舞う竹の造形」をデモンストレーションガーデン出展した。
2. 宝塚大橋の歩道空間整備計画における植栽計画	2023年8月21日～2023年9月20日	修士課程2年生の「建築実務インターンシップII」の授業の一環として取り組んだ、武庫川にかかる宝塚大橋のリニューアル後の花壇の植栽デザイン案作成を指導した。また、指導学生らは9月20日に宝塚市役所で山崎晴恵市長らにデザイン案をプレゼンテーションした。
3. 「2022ひょうごまちなみガーデンショー in 明石」への出展	2022年9月18日～2022年9月25日	景観建築設計総合演習Aの第1課題「原寸大の空間構築」の作品「Be-Bee Oasis ～ハニカムドームがつくる憩いのガーデン～」を県立明石公園で開催された「2022ひょうごまちなみガーデンショー in 明石」に出展した。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 大阪産業大学デザイン工学部 非常勤講師	2017年4月～2020年3月	「フィールドプラクティス1」「フィールドプラクティス2」「フィールドスタジオ演習1」「フィールドスタジオ演習2」
2. 常磐会短期大学幼児教育科 兼任講師	2014年4月～2019年3月	「子どもと植物」
3. 滋賀大学教育学部 非常勤講師	2012年4月～2013年9月	「栽培学」「栽培実習I」「栽培実習II」
4. 金城大学社会福祉学部 非常勤講師	2009年9月～2018年3月	「園芸論」「ガーデニング」「園芸療法論」「園芸療法実習」
5. 京都文教短期大学家政学科 非常勤講師	2008年4月～2009年9月	「ガーデニング論」
6. 徳島文理大学人間生活学部 非常勤講師	2003年4月～2013年3月	「ガーデンデザイン論」
7. 平安女学院大学生活環境学部、生活福祉学部 非常勤講師	2003年4月～2012年3月	「ガーデンデザイン」「ガーデンデザイン演習」「ランドスケープデザイン」「ガーデンデザイン演習」「園芸総論」「ガーデニング演習」「園芸療法論」「園芸療法実習」
8. 平安女学院大学生活環境学部、生活福祉学部 非常勤講師	2003年4月～2012年3月	「ガーデンデザイン」「ガーデンデザイン演習」「ランドスケープデザイン」「ガーデンデザイン演習」「園芸総論」「ガーデニング演習」「園芸療法論」「園芸療法実習」
9. 甲子園短期大学家政科、幼児教育科 非常勤講師	2003年4月～2007年3月	「園芸A」「園芸B」「ガーデニングI」
10. 平安女学院短期大学生活学科 非常勤講師	2000年4月～2003年3月	「ガーデンデザイン」「ガーデンデザイン演習」「住生活特論」
11. 甲子園短期大学家政学科 非常勤講師	1999年9月～2000年3月	「園芸コミュニケーション」
4 その他		
1. 高槻中学校 3年生対象進路講演会講師	2020年11月28日	高槻中学校・高等学校において、中学3年生に対し、専門の分野から中学生の進路選択の参考になるような講演の依頼を受けた。高槻中学校に赴き、農学部学びと進路および建築学部の概要について講演を行った。
2. 附属高校3年生対象入学前教育	2020年2月～1年に1回	附属高校3年生のうち、主に建築学部内部進学する生徒に対し、「まちの緑の機能と効果」をテーマに講義を行っている。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 改良普及員資格(農業)	1992年10月8日	兵庫県 平成4年度 第5号
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. (公財)兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター企画運営懇話会委員	2013年～2016年	兵庫県阪神南東区民局 阪神南地域ビジョン委員会主催「園芸療法講座」の講師依頼を受け、養護老人ホーム西宮市立寿園において、一般市民および入所者に対し、園芸療法の概要、効果および手軽に取り組める園芸療法の事例についての解説を行った。 毎年11月に行われる学園祭において、一般市民に対し、クリスマスリース作りの実技講習を行った。 「春まで楽しめる寄せ植え」一般市民に対し、コンテナガーデニングについての講義と寄せ植えの実習指導を行った。 淡路花博ジャパンフローラ2000「第13回国際コンテスト」において審査員をつとめた。 産経新聞夕刊「ガーデニングガイド 花・緑・人」を計8回連載した。 (社)兵庫県造林緑化公社 花と緑のまちづくり研究所にて、緑化やガーデニングの普及啓発、コンサルティング、年1回の「ひょうごまちなみガーデンショー」の開催、年4回の機関紙の発行、兵庫県庁周辺花壇植栽計画、第45回全国植樹祭(兵庫県主催)飾花計画(1994年度)等に従事。
2. 兵庫県阪神南東区民局 阪神南地域ビジョン委員会主催「園芸療法講座」講師	2004年9月16日	
3. 平安女学院大学学園祭公開講座講師	2004年～2007年	
4. 平安女学院大学公開講座講師	2002年10月12日	
5. 淡路花博ジャパンフローラ2000「第13回国際コンテスト」審査員	2000年8月12日	
6. 産経新聞夕刊「ガーデニングガイド 花・緑・人」連載記事執筆	1999年10月～2000年3月	
7. 兵庫県農林水産部勤務	1993年4月1日～1997年3月31日	
4 その他		
1. 日本緑化工学会学会賞(論文賞)	2013年9月	「テイカカズラ類の分類体系の整理と交雑の可能性に関する研究」

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 都市緑化植物テイカカズラ類の分類および交雑に関する研究	単	2011年3月	京都府立大学博士(学術)	緑化植物として利用される植物のうち、近年流通と利用が広がっているにもかかわらず、基礎的知見に乏しいテイカカズラ類(Trachelospermum spp.)を取り上げた。テイカカズラ類の適切かつ効果的な利用に寄与することを目的とし、テイカカズラ類数種の識別と類縁関係の探索を行った。また、テイカカズラ類の交雑の可能性を調査し、生物多様性にも配慮した今後の都市緑化での植栽の指針を探る一助とした。(京都府立大学 学術博第29号)
3 学術論文				
1. 泉北ニュータウンにおける歩行空間の利用実態調査	共	2024年8月31日	日本緑化工学会誌 50(1), 167-170	大阪府堺市に位置する泉北ニュータウンを対象とし、緑道をはじめとするニュータウン内の歩行空間に焦点を当て、利用実態調査を行った。ニュータウン内の緑道、市道および府道について観察経路法を用いて調査した結果、緑道の利用が他の歩行空間よりも多いことが明らかとなった。また緑道は単に通行のためだけではなく、遊びや運動、休息など多様な使われ方をしていることが明らかとなり、緑道の重要性が確認された。富田尚子・上町あずさ・森本順子本研究では、緑地空間の風景をVR動画(図-2)で視聴させ(図-1, 2)、その印象評価実験を行い、緑地空間の風景が人に及ぼす心理的な効果を明暗の観点から明らかにした。その結果、画像下部が暗く、明るさのコントラストが弱い動画の評価が低かった。また、印象評価の評定の平均値から因子分析を行った結果、「空間快適性因子」と「活性因子」が認められた。この2つの因子の因子得点を目的変数とし、画像の各特長を説明変数とした重回帰分析を行った結果、「画像上部の画素値の標準偏差」のみ説明変数に採用することが望ましいと判断され、視野上部の明るさのコントラストが強いほ
2. 視点場から撮影した動画とVRを用いた緑地景観の印象評価－光環境の違いに着目して－	共	2022年8月	日本緑化工学会誌 48(1) : 39-44	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
3. 新型コロナウイルス感染症流行による都市公園の利用者数変化と公園特性の関係—大阪市・堺市・名古屋市の都市公園に着目して— (査読付)	共	2021年8月	日本緑化工学会誌 47(1) : 39-44	ど緑地空間の快適性が向上することが示唆された。平井 茜・杉浦 徳利・ <u>上町あずさ</u> 本研究では、携帯電話の位置情報サービスに基づいた流動人口の変化から新型コロナウイルス感染症流行下における都市公園の利用実態を分析し、利用実態に繋がる要因を公園特性から明らかにすることを目的とした。大阪・堺・名古屋市の3都市21公園を対象に、2020年2月から9月の公園利用者数を2019年の同時期と比較するとともに、公園利用者数の変化と公園特性の関係を探った。その結果、新型コロナウイルス流行により平日の公園利用が増加する傾向がみられた。また、公園利用者数の対前年増減率と公園の周辺人口に負の相関がみられ、新型コロナウイルス流行下では都心部よりも郊外で利用者が増加する傾向が確認された。五十嵐紅梨歌・ <u>上町あずさ</u> ・杉浦徳利
4. Morphological and molecular studies of natural hybridization between <i>Trachelospermum asiaticum</i> and <i>Trachelospermum jasminoides</i> (Apocynaceae) in Japan. (査読付)	共	2016年10月	Acta Phytotax. Geobot., 67(3) : 159-174.	国内に自生するテイカカズラとケテイカズラの交雑の実態を明らかにすることを目的とし、形態調査および遺伝子解析を行った。博物館所蔵のさく葉標本および採取した自生個体の形態を調査した結果、テイカカズラとケテイカズラの中間的な形態を示す個体が確認された。さらに、核DNAのITS領域の塩基配列解析およびPCR-RFLP解析の結果からもテイカカズラとケテイカズラの自然交雑が示された。また、形態からはケテイカズラと同定されたにもかかわらず、PCR-RFLP解析では雑種のバンドパターンを示す個体が確認され、かなり広範囲かつ高頻度で両種の自然交雑が起こっている可能性が示唆された。 <u>Uemachi, A. & W. Fukui</u> (論文全般を担当)
5. 国内に流通している緑化用テイカカズラ類 (<i>Trachelospermum Lem.</i>) 種苗のPCR-RFLP法による識別 (査読付)	共	2015年8月	日本緑化工学会誌, 41(1) : 151-156.	国内に流通している緑化用テイカカズラ類をPCR-RFLP法により解析した。その結果、rp116イントロンのPCR-RFLP解析により中国産の <i>T. jasminoides</i> を国内産の <i>T. asiaticum</i> および <i>T. jasminoides</i> から識別できた。しかし、ITS領域の解析では、ゲノム内多型の為、両種間の雑種と <i>T. jasminoides</i> の識別が困難であった。また、形態調査では両種の中間的な形態を持つ個体は確認できなかった。 <u>上町あずさ・福井亘</u> (論文全般を担当)
6. RAPD法によるテイカカズラ属 (<i>Trachelospermum Lem.</i>) 種苗の分類と交雑個体の検出 (査読付)	共	2013年9月	日本緑化工学会誌, 39(1) : 9-14.	国内には日本に自生するテイカカズラ、ケテイカカズラおよび中国などを原産地とするトウキョウチクトウの3系統が流通している。RAPD法によりこれら3系統を識別する指標を得た。得られた指標を利用し、緑化用種苗や園芸品種の識別を行った。さらに、テイカカズラ類を混植している圃場で得られた種子由来の後代をRAPD法により雑種検定した。その結果、テイカカズラとケテイカカズラとの交雑個体が検出され、緑化の現場でテイカカズラ類が自生種と交雑する可能性が示唆された。 <u>上町あずさ・福井亘・下村孝</u> (論文全般を担当)
7. Molecular Phylogeny of <i>Trachelospermum</i> (Apocynaceae) in Japan Based on cpDNA and nrDNA Nucleotide Sequences. (査読付)	共	2013年6月	Acta Phytotax. Geobot., 64 (1) : 1-13	葉緑体DNAと核DNAのITS領域の塩基配列解析による日本産テイカカズラ類の類縁関係の探索を試みた。その結果、ITS領域の解析結果は、従来の分類学的取扱いと一致したが、葉緑体DNAでは、ケテイカカズラと種の異なるテイカカズラの配列が一致し、ケテイカカズラで、交雑による葉緑体の獲得が起こっている可能性が示唆された。また、ITS領域の解析で、テイカカズラとケテイカカズラの両方の配列をゲノム内多型として持つ個体が確認され、両者が自然交雑している可能性が示唆された。 <u>Uemachi, A. & T. Shimomura</u> (論文全般を担当)
8. 緑化用および観賞用植物として流通しているテイカカズラ属 (<i>Trachelospermum Lem.</i>) 園芸品種の分類 (査読付)	共	2009年8月	日本緑化工学会誌 35(1) : 75-80	国内にはキョウチクトウ科テイカカズラ属の園芸品種が流通している。しかし、園芸品種と原種との類縁関係は解明されておらず、品種の分類に関するまとまった報告も無い。本研究では国内で流通しているテイカカズラ類園芸品種35種類を収集し、生殖器官および栄養器官の形態調査を行い、これまでに明らかにされているテイカカズラ類原種の形態と比較した。その結果、品種の由来が明らかになった。また、生産、流通時における品種名の混乱の実態が明らかとなった。 <u>上町あずさ・下村孝</u> (論文全般を担当)
9. 近畿中部自生株およ	共	2008年8月	日本緑化工学会誌	テイカカズラ類2種1変種を同定するための簡易な指標を明らかにす

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
び流通株を用いたテイカカズラ属の簡易同定法の検討（査読付）			34(1) : 115-120	ることを目的とし、近畿中部に自生しているテイカカズラ類および国内に流通しているテイカカズラ類の栄養器官の形質を調査した。その結果、成熟相のテイカカズラ、ケテイカカズラおよびトウキョウウチクトウを栄養器官の外観により簡易に同定することが可能となった。また、テイカカズラおよびケテイカカズラの成熟相と幼若相の形質の相違点を明らかにした。 <u>上町あずさ</u> ・下村孝（論文全般を担当）
10. テイカカズラ属数種の花の形態による同定の試み（査読付）	共	2007年8月	日本緑化工学会誌 33(1) : 105-110	テイカカズラ類は付着と巻き付きの双方で登攀できるため、優れた立面緑化素材として期待できる。わが国では、テイカカズラ、ケテイカカズラおよびトウキョウウチクトウの和名を持つ3種類が流通するが、利用現場では種名の混同がある。本研究では、花器を指標として、テイカカズラ類3種の同定の手法を探った。国内外の図鑑類の記載内容を調査するとともに、採取したテイカカズラ類の花器の形態観察を行った。その結果、花器の形態により3種類を明確に区別する指標を明らかにした。 <u>上町あずさ</u> ・下村孝（論文全般を担当）
11. 家庭における室内緑化植物の利用実態と利用者の意識（査読付）	共	2007年3月	人間・植物関係学会雑誌6 : 31-39	人々の居住空間における室内緑化植物の利用実態および室内緑化に対する意識を戸建て住宅と集合住宅の住民を対象に、アンケートにより調査した。室内に植物を置きたいという希望があるにもかかわらず、採光や日当たりなどの環境要因により、置くことが困難な場合が多いこと、栽培管理についての不安が室内植物を置いていない主要な要因にもなっていることを明らかにした。各室内空間の環境に合う植物の提案やその栽培管理方法の解明と普及が課題であると考えられた。 下村孝・黒宮ゆかり・ <u>上町あずさ</u> （実験結果のとりまとめと論文執筆を担当）
12. A pseudoembryo highly stainable with toluidine blue 0 may induce fruit growth of parthenocarpic tomato.（査読付）	共	2004年5月	Acta Horticulturae 637 : 213-221	非単為結果性トマト品種に開花後の処理時期を変えてオーキシン処理し、果実肥大と偽胚の発達には密接な関係があることを明らかにした。また、極めて単為結果性の高い品種では開花前に果実肥大が開始するが、その際にも同時に偽胚が発達していることがわかった。さらに着果後肥大しない系統において、偽胚の発達が停止していることが明らかとなった。 Kataoka, K., Okita, H., <u>Uemachi, A.</u> and Yazawa, S.（計画、実験、考察の半分を担当）
13. Effect of endogenous gibberellins in the early stages of fruit growth and development of the 'Severianin' tomato.（査読付）	共	2004年1月	Journal of Horticultural Science & Biotechnology 79 : 54-58	単為結果性品種トマト 'Severianin' の果実肥大における内生ジベレリンの影響を調査した。ジベレリン生合成阻害剤を処理すると果実重が小さくなり、ジベレリン生合成阻害剤処理後にジベレリンを処理すると回復した。しかし、開花後3日目にジベレリン生合成阻害剤を処理し、その2日後にジベレリンを処理した区では果実肥大が抑制された。これにより、果実肥大には、肥大初期の内生ジベレリンが重要であることが示唆された。 Kataoka, K., <u>Uemachi, A.</u> , Nonaka, M. and Yazawa, S.（計画、実験、考察の大部分を担当）
14. Fruit growth and pseudoembryo development affected by uniconazole, an inhibitor of gibberellin biosynthesis, in pat-2 and auxin-induced parthenocarpic tomato fruits.（査読付）	共	2003年3月	Scientia Horticulturae 98 : 9-16.	単為結果性品種トマトおよびオーキシン処理した非単為結果性品種トマトを用いて、単為結果時の偽胚の形態的变化を観察した。偽胚は珠皮最内層の分裂により、胚のう内に形成された。ジベレリン生合成阻害剤により偽胚の発達および果実肥大が抑制されたがジベレリン処理により回復した。以上により偽胚の発達と単為結果果実の肥大の密接な関係が示唆された。 Kataoka, K., <u>Uemachi, A.</u> and Yazawa, S.（計画、実験、考察の大部分を担当）
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
1. 泉北ニュータウンにおける歩行空間の利用実態調査	共	2024年9月12日～14日	日本緑化工学会第55回大会	大阪府堺市に位置する泉北ニュータウンを対象とし、緑道をはじめとするニュータウン内の歩行空間に焦点を当て、利用実態調査を行った。ニュータウン内の緑道、市道および府道について観察経路法を用いて調査した結果、緑道の利用が他の歩行空間よりも多いことが明らかとなった。また緑道は単に通行のためだけでなく、遊びや運動、休息など多様な使われ方をしていることが明らかとなり、緑道の重要性が確認された。富田尚子・上町あずさ・森本順子
2. 若者が暮らしやすい街の構成要素に関する研究 -イメージマップに表れる若者の行動特性-	共	2024年8月28日	日本建築学会2024年度大会（関東）	本研究は若者に住み続けてもらうために必要な、都市の要素を探ることを目的とした。西宮市を研究対象とし、若者を対象にイメージマップを用いて若者の住みやすいと感じる街の要素を調査した。その結果、「便利」、「第3の場所」、「娯楽」の3つの条件を必要としていることが示された。また、地域生活において、バスや鉄道などの公共交通が不可欠であり、移動手段をいかに維持、確保するかが重要であることが明らかとなった。川端柚香・上町あずさ・森本順子
3. まちのリビング -人が集い繋がる地域交流会館-	共	2024年8月28日	日本建築学会2024年度大会（関東）	本設計は、泉北ニュータウンの1住区である「高倉台地区」の一角を敷地とし、隣接する緑道空間を含め地域コミュニティの核となる場を提案した。多彩な半屋外のある商業施設や空間同士の緩やかに仕切る児童館を配置し、「まちのリビング」のような、多世代が少し休憩したいときに立ち寄り、人がくつろぎ、集い繋がる計画とした。富田尚子・森本順子・上町あずさ
4. 輪廻 -テンセグリティによる舞う竹の造形-	共	2024年8月28日	日本建築学会2024年度大会（関東）	不規則で浮遊感のある立体的な造形を実現するため、テンセグリティ構造を用いた竹による構築物を制作し、植栽と組み合わせ、パブリックアートとした。竹については伐採され燃やされる竹を活用し、パブリックアートとして保管・管理することで、環境に優しい解決方法を提案した。市丸美帆・磯田望佑・神野友紀子・杉本湖都・比津文歌・盛影聖・杉浦徳利・田崎祐生・上町あずさ
5. Be-Bee Oasis -人間と生き物のためのストリートファニチュア-	共	2023年9月15日	日本建築学会2023年度大会（近畿）	ハチの巣構造で知られるハニカム構造は、構築物として合理的で強度を持つ形である。その強みを活かし「自然豊かな土地にしか生息しないといわれるミツバチも住み着くような都市」の実現に向けて、人間と生き物の居場所を創る緑豊かなストリートファニチュアを提案した。正木桜・中谷友維・杉浦徳利・田崎祐生・上町あずさ
6. 視点場から撮影した動画とVRを用いた緑地景観の印象評価 -光環境の違いに着目して-	共	2022年9月21日～24日	日本緑化工学会第53回大会	本研究では、緑地空間の風景をVR動画で視聴させ、その印象評価実験を行い、緑地空間の風景が人に及ぼす心理的な効果を明暗の観点から明らかにした。その結果、画像下部が暗く、明るさのコントラストが弱い動画の評価が低かった。また、印象評価の評定の平均値から因子分析を行った結果、「空間快適性因子」と「活性因子」が認められた。この2つの因子の因子得点を目的変数とし、画像の各特長を説明変数とした重回帰分析を行った結果、「画像上部の画素値の標準偏差」のみ説明変数に採用することが望ましいと判断され、視野上部の明るさのコントラストが強いほど緑地空間の快適性が向上することが示唆された。平井 茜・杉浦徳利・上町あずさ
7. Ainu Promenade	共	2022年9月	日本建築学会大会 建築デザイン発表梗概集（北海道）	アイヌ民族の自然への関わりを取り入れた博物館を設計した。地形、山を構成する木々、山からの採石など、山そのものを展示物だと捉え、自然を重要視したアイヌの文化を表した。正木 桜・杉浦徳利・上町あずさ
8. ユーカラにおけるアイヌ民族の自然観に関する考察山と大地と海に着目して-	共	2022年9月	日本建築学会大会 学術講演梗概集（北海道）	本研究ではアイヌ民族の説話文学であるユーカラを分析対象とし、自然に関する描写や異婚に関する描写を抜き出して、自然や神がユーカラの中でどのように扱われているかを読み解いた。その結果、アイヌにとって山・大地・海は根元不明で制御できない、神とは独立したより高位な畏怖の対象であると考えられた。正木 桜・杉浦徳利・上町あずさ
9. 新型コロナウイルス感染症流行による都市公園の利用者数変化と公園特性の関係 -大阪市・堺市・名古屋市の都市公園に	共	2021年9月4日～12日	日本緑化工学会第52回大会	日本緑化工学会第52回大会（オンライン大会）の論文・技術報告部門において研究発表を行った。五十嵐紅梨歌・上町あずさ・杉浦徳利

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
着目してー 10. 開かれた庭	共	2021年9月	日本建築学会大会 建築デザイン発表 梗概集（東海）	新宿区神楽坂に英会話教室をメインとするイギリスの国際交流機関 BRITISH COUNCILがある。本計画では英会話教室に加え、カフェやパ ブ、情報センターを設けることで、多くの人が利用し、交流できる 空間を提供する。また敷地は現BRITISH COUNCIL の場所より南に1 ブロック移動し、隣地の「アンスティチュフランセ東京」のアプ ローチと合わせて計画し、双方の交流性を高めることも図った。 岸音葉・杉浦徳利・上町あずさ
11. ANNULUS - 知ること の先にある世界を目 指して-	共	2021年9月	日本建築学会大会 建築デザイン発表 梗概集（東海）	オーストラリア先住民は保護という名の下、強制的に住まわせら れ、その劣悪な環境によってスラム化した歴史的背景がある。たく さんの人々が訪れ、交流し、理解を深め、『知る』ことにより『真 の異文化共生』につながる。『知ること』を異文化共生の第一歩と して、忘れてはならない迫害の歴史と都市の中に薄れゆく文化の伝 承、人々の交流を目的とした空間を提案した。 藤井花帆・杉浦徳利・上町あずさ
12. 辿る 一天孫降臨の地 に建つ神話資料館ー	共	2021年9月	日本建築学会大会 建築デザイン発表 梗概集（東海）	日本最古の歴史書である『古事記』、『日本書紀』に記された日本 神話「天孫降臨」の伝承地である、宮崎県西臼杵郡高千穂町。神々 が天から降り立ったとされるこの地に、空間を辿るとともに、神話 の世界も辿ることのできる神話資料館の設計を行った。 川口真緒・杉浦徳利・上町あずさ
13. 地形的特徴と神社の 分布からみる 神話伝 承地高千穂の空間構 成	共	2021年9月	日本建築学会大会 学術講演梗概集 （東海）	本研究では、地形的特徴と神社の分布を手掛かりとして、神話伝承 地である高千穂の空間構成を明らかにすることを試みた。その結 果、高千穂は、山脈や峡谷を境界とした閉鎖的な囲われた空間が形 成されていることが明らかとなった。囲われた最奥には、古代人が 理想郷とした四方を囲われた空間が神話伝承地であるくしふる峰を 含む山脈、五箇瀬川峡谷によって形成されており、天孫降臨神話に 関係深い天津神を祀る場、そして人々の住まう場として発展して いったと考えられた。 川口真緒・杉浦徳利・上町あずさ
14. BOTANICAL HOUSE ー 梅田に建つ緑豊かな 植物園兼集合住宅ー	共	2020年9月	日本建築学会2020 年度大会 建築デ ザイン発表会	現在うめきた2 期が計画予定とされている場所に都市に建つ植物園 兼集合住宅を設計した。緑の少ない都市において、植物豊かな空間 は人に癒しの効果を与える建築空間となる。植物と人がより良い関 係で一緒に暮らすことで暮らしにおける植物の効果を実感し、今ま でにない新しい空間体験をさせることを目的とした。 川崎美穂・杉浦徳利・上町あずさ
15. 暮らしの学び舎 ーカ トマンズに建つ小学 校と孤児院の複合施 設ー	共	2020年9月	日本建築学会2020 年度大会 建築デ ザイン発表会	ネパールのカトマンズに子どもたちが教育を受けることができる環 境を作ること、孤児院以外での生活を学ぶことを目的とし、カース トや世代、性別関係なく教員の他、地域住民からも学問と生活を学 ぶ、“暮らしの学び”を教わる複合施設を提案した。 古川十愛・杉浦徳利・上町あずさ
16. 人のつながりを生む 美味しい風土 ー農園 型集合住宅ー	共	2020年9月	日本建築学会2020 年度大会（関東） 建築デザイン発 表会	高槻市のベッドタウン化を踏まえた、農園による修景をコンセプト とした集合住宅を高槻市天神町に提案した。天神山を景観に取りい れ、かつての田園風景を想起させる計画とした。棚田を参考にした 階段状の屋根を設け、誰にでも菜園の様子や魅力が伝わりやすいよ うに計画した。また、居室から直接、畑のある屋根に出られ、栽培 を通した住人同士のつながりが生まれる。 平井茜・杉浦徳利・上町あずさ
17. 印象派絵画と建築物 外壁を対象にした柔 らかさの色彩表現に 関する一考察	共	2020年9月	日本建築学会2020 年度大会（関東） 学術講演会	印象派絵画と建築物外壁を対象とし、画像の色相・明度・彩度の数 値の分析およびアンケート調査を行い、人間が柔らかいと感じる色 彩表現の特徴を明らかにした。その結果、彩度の数値が高く、明度 のばらつきが少ない方が人は柔らかいと感じることが明らかとなっ た。 竹村友里・杉浦徳利・上町あずさ
18. 植物によるストレス 緩和効果に関する研 究 ～花の有無と植物 の配置に着目して～	共	2020年9月	日本建築学会2020 年度大会（関東） 学術講演会	花の有無に着目してストレスの緩和効果に違いが出るのかを調査し た。結果として、花の存在がストレス緩和効果を高める要素となる ことが示された。また、植物の配置がストレス緩和効果に関係して いるのかを調査した。囲い型配置が最も高いストレスの緩和効果 をもたらすことが示された。植物の見え方の違いよりも、植物と被験 者との距離の違いが、実験結果に反映されたものと考えられた。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
19. ネパールの都市部における街並みの外観意匠についての研究 -カトマンズのインドラ・チョークを対象として-	共	2020年9月	日本建築学会2020年度大会（関東）学術講演会	川崎美穂・杉浦徳利・ <u>上町あずさ</u> 近代化している首都カトマンズの旧市街地であるインドラ・チョークの街並みの外観意匠を探るべく、建物の外観を撮影して分析した。今ある伝統的な街並みを少しでも残すためにも、ネパールの現代の街並みの外観意匠を明確にすることで、伝統的な外観意匠と現代的な外観意匠が融合した新たな街並みとなる知見を得た。
20. 上越市高田における雁木通りの実態調査	共	2020年9月	日本建築学会2020年度大会（関東）学術講演会	古川十愛・杉浦徳利・ <u>上町あずさ</u> 新潟県上越市高田には、日本有数の雁木通りが現存する。しかし近年人口減少などによる都市としての衰退により通り沿いの建物が空き家となり取り壊される事例が増えている。本研究では高田地区全体の雁木を調査し、通りごとの比較を行うことにより、今後の在り方を考えるための基礎的知識を得た。
21. 高槻市天神町における景観の変遷に関する研究 旧西国街道沿いの上宮天満宮参道・旧芥川宿東端を対象として	共	2020年9月	日本建築学会2020年度大会（関東）学術講演会	陸川葵・杉浦徳利・ <u>上町あずさ</u> 本研究では大阪府高槻市天神町を対象に、天神山を臨む景観を明治から令和の4年代に渡りCADで再現し、景観の変遷を明らかにすることで、以下のような知見を得た。 1)参道の景観の構成要素は、天神山に加え建物が個々の特徴を持ちながら増加した後、ビルのような類似した形態に変遷した。 2)参道の景観の構成要素のうち、天神山はシークエンス景観に強弱を持たせる重要な役割であった。
22. キャプション評価法を用いた好ましい風景の研究 -人、緑、建築の配置関係に着目して-	共	2020年9月	日本建築学会2020年度大会（関東）学術講演会	平井茜・杉浦徳利・ <u>上町あずさ</u> キャプション評価法を用いて、好ましい風景と好ましくない風景の評価要因および緑、人、建築の配置の特徴を考察した。得られた知見は以下の通りである。 ①キャプションに用いられた語句を分析した結果、「並び方・立ち方」などの度数が多かったことから、緑の配置が人々の印象評価に強く関係することが明らかとなった。 ②好ましい風景の写真の要素を分析した結果、建物の手前に木があり、建物が見え隠れする風景が好ましい風景に関係することが示された。
23. 木本性つる植物テイカカズラ類の生育特性	共	2016年9月	日本緑化工学会第47回大会 研究交流発表会ポスターセッション（京都府立大学）	中川結夏・杉浦徳利・ <u>上町あずさ</u> テイカカズラ類のシュートの伸長形態およびシュートからの発根状態を調査した。成熟相の個体では登攀の際に付着と巻き付きの両方の伸長形態が見られた。巻き付きの際にも気根の発生する場合があったが、気根が対象物に付着している例は少なかった。また、1本のシュートが付着から巻き付きへ移行している事例が確認できた。着花の状況を比較すると、下垂や巻き付きで着花が多く、匍匐では少なかった。また、付着登攀しているシュートには着花が見られなかった。
24. 国内に流通している緑化用テイカカズラ類 (Trachelospermum Lem.) 種苗のPCR-RFLP法による識別 (査読付)	共	2015年8月	第46回日本緑化工学会大会 ポスターセッション (日本大学)	<u>上町あずさ</u> ・福井 亘・岡田準人 (発表全般を担当) 学術論文2 日本緑化工学会誌, 41(1): 151-156. 参照 <u>上町あずさ</u> ・福井亘 (発表全般を担当)
25. 国内に自生するテイカカズラとケテイカカズラ間の自然交雑	共	2014年3月	日本植物分類学会第13回大会 (熊本大学)	国内に自生するテイカカズラとケテイカカズラの交雑の実態を明らかにすることを目的とし、形態調査およびITS領域の配列の違いを利用したRFLP (Restriction Fragment Length Polymorphism) 分析を行った。その結果、テイカカズラとケテイカカズラは自生域が重なる地域において自然交雑している可能性が高いことが示唆された。
26. RAPD法によるテイカカズラ属 (Trachelospermum Lem.) 種苗の分類と	共	2013年9月	第44回日本緑化工学会大会 口頭発表 (鳥取大学)	<u>上町あずさ</u> ・福井亘 (発表全般を担当) 学術論文3 日本緑化工学会誌, 39(1): 9-14. 参照 <u>上町あずさ</u> ・福井亘・下村孝 (発表全般を担当)

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
交雑個体の検出（査読付） 27. 大学生を対象とした草花あそび体験のアンケート調査	共	2011年9月	第69回日本農業教育学会講演会 口頭発表（島根大学）	大学生を対象に草花あそび体験についてのアンケートを行った。その結果、知っている草花あそびは平均8.6種類であり、女性の方がよく知っていた。また、教わった人は「友達」に次いで「幼稚園・小学校等の先生」が多く、幼稚園や小学校などでの教育も草花あそびの伝承に大きな役割を担っていることが示された。また、遊んだ場所は「公園」と「幼稚園・保育園・小学校等」が多く、身の回りの自然と触れる場所として、公園や幼稚園、保育園、小学校等が重要であることが示された。 <u>上町あずさ・加藤博・畠紀子</u> （発表全般を担当）
28. Molecular phylogeny of the genus <i>Trachelospermum</i> in Japan based on RAPD analysis and the nucleotide sequences of cpDNA and nrDNA.	共	2011年3月	日本植物分類学会第10回大会および日中韓3国シンポジウム ポスターセッション（筑波大学）	RAPD解析および葉緑体DNAと核リボソームDNAのITS領域の塩基配列解析による日本産テイカカズラ類の類縁関係の探索を試みた。その結果、RAPD解析では、従来の系統学的分類とほぼ一致した。また、ITS領域の解析結果も、従来の分類学的取扱いと矛盾しなかった。しかし、葉緑体DNAの解析では、ケテイカカズラとテイカカズラの配列が一致し、ケテイカカズラにおいて、交雑による葉緑体の獲得が起こっている可能性が示唆された。 <u>Uemachi, A and Shimomura T.</u> （発表全般を担当）
29. Identification of <i>Trachelospermum asiaticum</i> and <i>T. jasminoides</i> using RAPD analysis.	共	2010年8月	第28回国際園芸学会 ポスターセッション（ポルトガル, リスボン）	テイカカズラ, ケテイカカズラおよびトウキョウチクトウの3系統は景観植物としての利用の際、しばしば混同されている。これらをRAPD解析し、3系統の同定に利用できる系統特異的なバンドを見いだした。また、この系統特異的なバンドを利用し、国内に流通している緑化用種苗および斑入り品種の系統を明らかにした。 <u>Uemachi, A. and Shimomura T.</u> （発表全般を担当）
30. 緑化用および観賞用植物として流通しているテイカカズラ属（ <i>Trachelospermum Lem.</i> ）園芸品種の分類（査読付）	共	2009年8月	第40回日本緑化工学会大会 ポスターセッション（淡路夢舞台国際会議場）	学術論文5 日本緑化工学会誌35(1) : 75-80. 参照 <u>上町あずさ・下村孝</u> （発表全般を担当）
31. 近畿中部自生株および流通株を用いたテイカカズラ属の簡易同定法の検討（査読付）	共	2008年8月	ELR2008福岡（三学会合同大会）ポスター発表（福岡大学）	学術論文6 日本緑化工学会誌34(1) : 115-120. 参照 <u>上町あずさ・下村孝</u> （発表全般を担当）
32. テイカカズラ属数種の花の形態による同定の試み（査読付）	共	2007年8月	第38回日本緑化工学会大会 ポスターセッション（京都大学）	学術論文7 日本緑化工学会誌33(1) : 105-110. 参照 <u>上町あずさ・下村孝</u> （発表全般を担当）
33. Research of students on how many plants they know before and after practical training.	共	2004年6月	第8回人間・植物学国際シンポジウム（兵庫県淡路夢舞台国際会議場）	園芸実習を履修する短大生を対象に実習前後にどれだけの植物名を書きことができるか調査を行った。実習前より実習後でより多くの植物名を書きことができた。特に実習で用いた植物はほとんどの学生が名前を挙げることができ、実習の効果が認められた。また、スマレ、サクラなど日本に古くからある植物やチューリップ、アサガオ、ヒマワリなど幼稚園や小学校で扱われる植物が多く挙げられた。 <u>Nagano, A. and Uemachi, A.</u> （実験、考察の一部を担当）
34. A pseudoembryo with highly stainable cells induces fruit growth of parthenocarpic tomato.	共	2002年8月	第26回国際園芸学会（カナダ, トロント）	極めて単為結果性の高いトマト品種では開花前に果実肥大が開始するが、その際に同時に偽胚が発達していることがわかった。さらに着果後肥大しない系統において、偽胚の発達が停止していることが明らかとなった。この肥大しない系統にオーキシン処理を行うと、肥大および偽胚の発達が開始した。以上より、着果には珠皮最内層の肥厚が、果実肥大には偽胚の発達が必要であることが示された。 <u>Kataoka, K., Okita, H., Uemachi, A and Yazawa, S</u>
35. 単為結果性トマトの偽胚発達と果実肥大	共	2001年4月	園芸学会平成13年度春季大会 ポスター発表（東京農	非単為結果性トマト品種に開花後の処理時期を変えてオーキシン処理し、果実肥大と偽胚の発達には密接な関係があることを明らかにした。また、極めて単為結果性の高い品種では開花前に果実肥大が

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
36. トマト単為結果果実の肥大と偽胚の発育	共	1993年4月	園芸学会平成5年度春季大会 口頭発表 (筑波大学)	開始するが、その際にも同時に偽胚が発達していることがわかった。以上より、トマトの単為結果において、偽胚が果実肥大を誘導する可能性が示唆された。 片岡圭子・置田瞳・上町あずさ・水田洋一・矢澤進 (計画、実験、考察の一部分を担当) 単為結果性品種トマトおよびオーキシン処理した非単為結果性品種トマトを用いて、単為結果時の偽胚の形態的变化を観察した。偽胚は珠皮最内層の分裂により、胚のう内に形成された。ジベレリン合成阻害剤により偽胚の発達および果実肥大が抑制されたがジベレリン処理により回復した。以上により偽胚の発達と単為結果果実の肥大の密接な関係が示唆された。 野坂 (旧姓) あずさ・片岡圭子・矢澤進 (発表全般を担当)
3. 総説				
4. 芸術 (建築模型等含む)・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. コラム緑化植物 テイカカズラ ケテイカカズラ	単	2023年11月	日本緑化工学会誌 49 (2) 227-228	キョウチクトウ科テイカカズラ属のテイカカズラは本州、四国、九州の山野の林に分布する常緑のつる植物である。また、近縁のケテイカカズラもは近畿地方以西に自生する。これら2種はグラウンドカバーや立面緑化材料として多様な緑化現場で利用されており、緑化植物として有用である。本コラムではこれら2種の特性や識別の必要性について紹介した。
2. 学会賞 (論文賞) を受賞して (寄稿)	単	2014年2月	日本緑化工学会誌 39 (3) : 340-342.	これまでの一連の研究で、国内に自生しているテイカカズラとケテイカカズラの形態による識別を確立したが、緑化種苗として流通しているテイカカズラ類には、形態からは識別できない幼若相のトウキョウチクトウや外国産のケテイカカズラが含まれることが判明し、これらの識別には分子生物学的手法を用いる必要があることが明らかとなった。また、中国や朝鮮半島に自生するテイカカズラ類についても調査し、国内産テイカカズラ類との類縁関係を明らかにする必要がある。
3. アトリウム内の光環境と植栽植物の葉緑素含量について	共	2004年3月	甲子園短期大学紀要 22:51-56	大同生命江坂ビルのアトリウムにおいて、植栽植物の葉の葉緑素計SPAD値およびクロロフィルa, b含量を測定した。その結果、SPAD値とクロロフィルa+b含量の間には高い相関がみられ、SPAD値からのクロロフィルa+b含量の推定が可能であることが明らかとなった。また、クロロフィルa/b比がアトリウム外でアトリウム内より高く、クロロフィルa/b比が弱光環境への順化の目安として利用できることが示唆された。 永野明範・上町あずさ (実験、考察の一部分を担当)
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2024年8月～現在	日本造園学会関西支部大運営委員			
2. 2024年6月～2028年10月	兵庫県園芸・公園協会評議員			
3. 2024年3月28日～現在	日本緑化工学会評議員			
4. 2024年2月28日～2026年3月31日	宝塚市パークマネジメント計画等審議会委員			
5. 2023年8月9日～2024年3月31日	淡路夢舞台公苑温室大規模修繕設計施工業務公募型プロポーザル選定委員会委員			
6. 2022年7月15日～2023年3月31日	県立都市公園のあり方検討会明石部会委員			
7. 2021年12月～2022年6月	加古川市見土呂フルーツパーク再整備管理事業者選定委員会委員			
8. 2021年4月1日～2023年3月31日	日本造園学会関西支部大会実行委員			
9. 2020年6月～現在	日本建築学会会員			
10. 2019年4月～現在	日本造園学会会員			
11. 2014年7月～2020年7月	日本緑化工学会 評議員			
12. 2014年2月～2024年3月31日	日本緑化工学会 学会誌編集委員			
13. 2011年4月～2014年3月	日本農業教育学会 会員			
14. 2010年4月～2024年12月	日本植物分類学会 会員			
15. 2008年4月～2010年3月	人間・植物関係学会 第9回京都大会実行委員会 実行委員			

学会及び社会における活動等

年月日	事項
6. 研究費の取得状況	
16. 2006年4月～現在	日本緑化工学会 会員
17. 2003年4月～2018年3月	人間・植物関係学会 会員